

一般質問（令和7年12月）

不登校児童生徒の多様な居場所支援

- Q 不登校児童生徒が通う多様な居場所の現状は。**
A 市のはなも教室、仙南けやき教室、市内外の民間フリースクールなどが活用されている。学習や社会性を育む場として重要な役割を担っている。
- Q 民間フリースクールとの連携状況は。**
A 学校とフリースクールが直接情報交換できる場合と、保護者を介して共有する場合がある。今後は学校とフリースクールが直接連携できるよう働きかける。
- Q 保護者負担軽減のため利用料金の補助をすべき。**
A 保護者負担は認識しているが、フリースクールは運営形態や料金が多様で、補助制度化には課題が多い。他自治体の状況を踏まえ調査研究を進める。
- Q 運営費の補助をすべき。**
A 他自治体の例はあるが、施設ごとの多様性から条件整備が難しく、現状では補助は困難と判断している。
- Q 在籍校での出席扱い・成績評価の説明は。**
A 学校は説明を行っているが、フリースクールからの情報提供が不十分な場合もあり課題。校長会を通じ丁寧な説明を指示する。

道路交通法改正と自転車交通安全教育

- Q 学校での自転車交通安全教育の取組は。**
A 全校で4~5月にルール、点検、安全な乗り方を指導し、警察や交通指導隊による実技指導も実施。令和7年度の交通事故13件中10件が自転車乗車中。事故防止とルール遵守が課題。
- Q 道路交通法改正を積極的に周知すべき。**
A 校長会を通じ周知済み。令和8年4月施行に合わせ、青切符導入の教室掲示用リーフレットを全校に配布予定。保護者にはメールや学校だよりで周知する。→市ホームページにも掲載されました。
- Q 中学3年生への重点指導を行うべき。**
A 16歳で法的責任が強まることを踏まえ、中学3年生での指導強化は重要。道路交通法改正や歩行者優先の内容を指導項目に加える方向で検討する。



一般質問（令和7年2月）



名取市サイクルスポーツセンターの現状と課題

- Q 利用者数の推移は。**
A 屋外施設は令和4年度が10万3千人でピーク、令和5年度は猛暑や週末の雨天、外出先の多様化により約14%減少。一方、宿泊・入浴施設は毎年増加し、令和6年度も前年度を上回る見込み。
- Q 屋外施設の利用増減の要因は。**
A 開所時はコロナ禍で屋外施設の需要が高まり利用が増加。令和5年度は天候不順や他施設の再開により減少したと認識。
- Q おもしろ自転車のメンテナンス状況は。**
A 耐用年数は約10年。利用頻度の高いものから優先的に点検し、軽微な破損は指定管理者が修繕、安全確認の上で貸し出している。
- Q 破損による安全面への影響は。**
A 外装破損はあるが、怪我の報告はなし。利用者数への影響は具体的には把握していない。
- Q メンテナンス基準を定めるべきでは？**
A これまで随時対応してきたが不十分な点もあったため、更新・点検の基準を新たに定め運用する。
- Q 4キロコースの利用促進の工夫は。**
A 正確な数値は未把握だが、指定管理者の感触では4キロ走路が6割、おもしろ自転車広場が4割。走路内の撮影スポットは安全上困難だが、広場付近への設置は検討。走行距離によるスタンプラリーも実施に向け検討する。

後援会内部資料

名取市議会議員

てらしま雅子活動報告

Positive NATORI



第2号 2026.1



発行:てらしま雅子後援会

電話番号:090-5358-4455

住所:名取市美田園三丁目15番地の9

メール:terashimamasako.sp@gmail.com



ブログ



ホームページ



Facebook



Instagram

ごあいさつ

早いもので議員としての2年間が経とうとしています。皆様には日頃よりご指導を賜り、心より御礼申し上げます。

この間、地域の市民活動に積極的に参加し課題を拾いながら、子ども・子育て支援、学校教育、交通安全対策、そして防災対策など、地域の暮らしに直結する視点での活動に取り組んでまいりました。特に、学校に通いづらい子どもたちへの支援体制の強化や、子ども・保護者の声を行政に届ける仕組みづくりなど、多くの皆さまと対話を重ねながら進めてきた取り組みは、私にとって大きな学びとなりました。これからも、現場の声に耳を傾け、地域の未来をともに作る姿勢を大切に、誠実に活動を続けてまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

てらしま雅子

名取市議会議員

てらしま雅子 市政報告会



市政報告会のご案内

日時: 令和8年4月19日(日)

14:00~15:30

場所: 下増田公民館研修室

○参加無料 ○事前申込不要

○入退場自由 ○お子様連れ歓迎です!

てらしま雅子の一般質問などこれまでの市議会での取り組みや、議会で上がった注目する施策について、皆様からご意見をいただきながらお話しさせていただきます。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

雅子の活動の様子

青雲倶楽部行政視察(広島・愛媛)
DX、芸術振興、防災について学びました。



子育てに関わる方に向けたマルシェの実行委員に参加、赤ちゃん連れの親子と交流しました。

親子で造形活動に親しむ場づくりを継続して行っています。2月には文化会館で展示予定。



気仙沼市の最終処分場に見学に行き、名取市で建設予定の処分場について学びました。

一般質問の過去のアーカイブ映像は、名取市議会ホームページから見るができます。

日頃の活動の詳細はFacebookやInstagram、ブログにも掲載



一般質問
アーカイブ

一般質問（令和6年9月）

アプリの普及整理について

Q 市で導入するスマホアプリのダウンロード状況は？

A ごみ分別アプリが1万件超と最多、他に母子手帳アプリや地域通貨アプリなど、全体で2万件以上。

Q 各アプリの管理体制は？

A 各アプリは担当課が管理し、全体の調整はAIシステム推進課が所管する「電子計算機利用検討委員会」で行う。

Q 目的別の分類表示、プッシュ通知の強化、アイコンの視認性改善など、利用者目線でアプリの使いやすさを向上すべき。

A 改善を検討する。

→公式ポータルアプリ「ナトぼた」に反映されました。

Q アプリ連携や統合を行っていくべき。

A 新規導入時には他アプリとの連携を視野に入れ、将来的な統合や整理は他自治体の事例を参考に検討。

ナトぼた画面



一般質問（令和7年6月）

中学生海外派遣事業の見直しと方向性

Q カナダ派遣事業の成果と課題は。

A 生徒から英語力向上などの成果が報告され、保護者は積極性向上を評価。一方、研修意義の理解や長時間移動の体調不良などの課題が挙げられた。

Q 対象学年を2学年のみに戻すべきでは？

A 応募減少時に対象を広げたが、1学年の参加が多く課題の一因と指摘、国際交流実行委員会では2学年のみが妥当と判断。市も同様に検討する。

Q ホームステイ受入家庭の増加策は。

A 多文化共生交流会の案内や訪問団受入時の募集などで継続的に声かけ。大学や高専へのチラシ掲示協力など周知を強化している。

Q 他の生徒や市民への報告機会を設けるべき。

A 個別報告は行っていないが、事業概要はHPや広報で周知。抽選漏れ者には多文化共生事業の案内を行い、国際化対応人材の育成に努める。

Q 派遣経験者が継続して関わる仕組みとすべき。

A ホームステイ受入や国際交流事業協力者としての参加を促し、継続的な関わりを支援する。

災害時のICT活用について

Q: 消防団との災害時の連絡体制は？

A: 火災や水防警報時には、消防から各分団へ携帯メールで連絡。消防団からの発信は現在行っていない。

Q: 災害時にLINE通報システムで市民や消防団から被災情報を集めるべき。

A: 有意義な提案だが、安全確保や運用ルール、技術的課題の検討が必要。

Q: 浸水センサーの設置を行うべき。

A: アンダーパスなど冠水リスクの高い場所への設置は有用、国の実証実験への参加を検討する。

Q: リアルタイムでの浸水情報共有は可能か？

A: 「なとりマップ」は随時更新に対応しておらず、課題整理や代替手段の検討が必要。

国際交流・多文化共生の体制づくり

Q 外国人居住者の傾向と課題は。

A 外国人登録者は647人（35か国）で増加、最多はベトナム。課題はニーズの多様化と多言語対応。

Q 国際交流協会設立に向けた市の取組は。

A 必要性は認識しているが、資金・事務局・拠点確保など課題が多く、民間主体の機運が高まっていない。担い手育成と支援を継続する。

Q 国際交流団体への支援の考えは。

A まずは団体の意向を確認する。

Q 外国人ニーズ調査の活用は。

A 多言語化は評価されたが、日本語学習機会や地域交流の要望が多い。交流会の協力者主体化や児童生徒向け日本語講座の追加など対応を進めている。

Q 外国人を雇用する企業との連携は。

A 特定技能制度の改正により事業所把握が可能に。協力確認書を活用してイベント周知など支援。

Q 庁内に専門係を設置すべき。

A 現状はなとりの魅力創生課が担当。設置は考えてないが、関係課と連携し多文化共生を推進する。

一般質問（令和7年9月）

津波警報と防災マニュアルの見直し

Q 7月30日の津波警報対応をどう検証したか。

A 本部体制、情報伝達、避難所運営など、関係職員へのヒアリングし、評価点と改善点を整理した。

Q 避難者が少なく、自己判断で帰宅した住民が多かった点をどう捉えるか。

A 避難所の人数は把握できるが、避難しなかった人の数は把握困難。一方、津波警報中の帰宅は危険であり、避難継続が重要と認識している。

Q 日中の避難は周辺の事業所などの避難が多かった。まなウェルみやぎの収容人数の妥当性は？

A 計画上の収容人数は940人。今回の避難者は約470人で、収容能力の半数程度で妥当と考える。

Q ワークショップを利用し意見を聞くべき。

A 防災情報共有や避難経路の危険箇所の洗い出しなど、危機意識向上につながる内容を盛り込み、今回の実体験も踏まえて進める。→11月の住民ワークショップで対応と検証が報告されました。

Q 子どもだけの避難訓練を働きかけるべき。

A 防災教育の必要性は認識しており、地域訓練で声かけを依頼。安全管理上の課題整理が必要。

Q 携帯を持たない子どもへの情報伝達は？

A 情報弱者への多重伝達は重要。防災ラジオ、行政無線、テレビテロップなど周知を続ける。

Q 家庭での防災に対する意識を高めるため、7年度更新の地区別防災マニュアルに漫画や書き込み欄を設けるべき。

A 漫画やイラストの活用は有効で工夫する。避難経路の書き込み欄は、更新時も継続する。

屋内遊戯施設「なとりぱーく」

Q 利用者の市内外比率と年齢傾向は。

A 利用者11万6,097人のうち、市内22.4%、市外77.6%。3~6歳が半数以上で、5歳が最も多い。

Q 市民への還元に向けた施策は？

A 市内の団体での予約を受付する。

→11月から団体利用が可能になりました。

Q イベントや他施設との連携状況は。

A 毎月イベントを実施。8月には中学生以上向けイベントを開催し好評。cocoI'11（ここいる）との連携事業も10月に予定。

Q 利用案内の掲示物の制約があると聞いている。緩和を求めるべき。

A 景観維持のため掲示は最小限だが、安全配慮の観点からイオン側が注意喚起のデザインを作成し掲示する方向で調整中。

Q 子育て支援情報の掲示スペースを設けるべき。

A 遊戯スペース確保のため掲示スペースは困難。現在あるデジタルサイネージ（電子看板）の活用を検討する。



イオンモール2階の屋内遊戯施設「なとりぱーく」

宅配ボックス購入費補助制度 好評により受付終了

令和6年6月議会で温暖化ガス排出削減や配送ドライバー不足などの環境対策として寺嶋が一般質問した「宅配ボックス購入費補助」が今年度100万円の予算により実施されていましたが、環境共創課によると好評のため100%執行され、12月中旬に申し込み受付が終了したということです。ご利用ありがとうございました。今後も再配達防止に向けてご協力をお願いします。

